

始業式 式辞

令和4年度のスタートにあたって、みなさんにいくつかお話をしたいと思えます。

私の校長としての方針は1つだけ、「活気のある学校を創りたい」ということです。みなさんの持っている可能性を最大限に発揮してほしいと思えます。

自分の可能性を伸ばしていくためには、自分で考え、自分で決めて、自分で動き始めることが大切です。そのためには、まず、「聴くこと、受け入れてみること」からスタートしましょう。日々の学習や生活の中から、自分が考え、判断し、行動するための、元になるものをどんどん増やしていくことが必要です。はじめから無理だとか、面倒だとかという姿勢で物事にあたるのではなく、とりあえずは、聴いて、受け入れて、やってみるということを進めてみましょう。

考える材料が増えていけば、広い視野から判断することができるようになります。みなさんの豊かな感性をいかして、自分が活躍できることを見つけてください。それが、活気のある学校を創るもとになると思えます。

みなさんのファイトあふれる活動を期待しています。

昔、会津藩には日新館という藩校があり、入学すると、「什の教え（おきて）」というものを習いました。いろいろと決まりはあるのですが、それは先輩が後輩におしえていくものであり、その中には、

「ひきょうなふるまいをしては、なりませぬ」とか

「弱いものをいじめては、なりませぬ」とかあり、

最後に「ならぬことは、ならぬものです」と締めくくります。

「ならぬことは、ならぬものです」ということは、だめだということよりも、「やらなくてはならないことは、やるもんだ！」という意味合いで使われていたようです。

時代や社会が違えば、大事にするものは違って来るかも知れませんが、みなさん自身が、「やらなくてはならないものはなんだろう」と考えてみてください。小名浜二中のスローガン、「凡事徹底」の精神を実践しましょう。

そして、それを実践していくうちに、さらに発展して、「私たちにできること」、もしかしたら、「私にしかできないこと」が見つかるかもしれません。

この1年、自分を高める気迫を養い、一人一人が目標達成に向けて頑張る姿を楽しみにしています。

令和4年4月6日

いわき市立小名浜第二中学校長 新家 弘久